

参加費用 参加費 16,000円
 ※参加費には1日目(1/23)の昼食代、懇親会費を含んでいます。懇親会へは皆様ご参加をお願いいたします。

宿泊費1人あたり シングル 10,500円
 ツイン 8,400円
 トリプル 7,350円

参加申込方法
 参加申込書に必要事項をご記入いただき、参加費用合計金額を指定口座にお振り込みの上、申込書を下記送付先にFAXにて送付願います。
 申込締切後、参加券を送付いたしますので、会議当日必ずご持参下さい。

★参加費用振込先
 南都銀行 本店営業部
 普通預金 No.1022307
 口座名義 奈良交通株式会社
 ※振込依頼者欄に「特別養護老人ホーム」「社会福祉法人」等からご記入いただいた場合、入金確認が困難になるおそれがありますので、ご入金の際、施設名が特定できるようご配慮いただければ幸いに存じます。
 ※振込手数料は貴会にてご負担をお願いいたします。

★参加申込書送付先
 奈良交通株式会社 本社旅行センター(担当:財部)
 〒630-8651 奈良市大宮町1丁目1-25
 TEL.0742-24-1280 FAX.0742-24-1282

★参加申込締切
 平成26年1月10日(金)
 ※なお、申込の取消による参加費の返金は、平成26年1月16日(木)までにご連絡いただいた場合に限り承ります。

会議内容等に関するお問い合わせ先
 奈良県老人福祉施設協議会事務局(担当:青木・西村)
 〒634-0061 橿原市大久保町320番11 奈良県社会福祉協議会内
 TEL 0744-29-0100 FAX 0744-29-0108
 E-mail:shisetsu@nara-shakyo.jp

**第26回 奈良県老人福祉施設職員研究会議
 開催要綱**

『明日の福祉の担い手として』～自らの手で築く専門性～

主催	奈良県老人福祉施設協議会	
後援	奈良県 奈良県社会福祉協議会 (予定)	
期日	平成26年 1月 23日(木) ～ 24日(金)	
会場	ホテル日航奈良(奈良市三条本町8-1)	
参加対象	奈良県内の会員老人福祉施設・デイサービスセンター職員	
日程	第1日目	
	9:30～10:00	受付
	10:00～10:30	開会式、感謝状授与
	10:30～12:00	講演Ⅰ 「平穏死～施設で最期をおくる～」 講師 医療法人社団 裕和会 長尾クリニック 院長 長尾 和宏氏
	12:00～13:00	昼食休憩
	13:00～17:30	施設実践発表(12施設) ※次頁参照
	17:30～18:00	休憩・チェックイン
	18:00～20:00	懇親会
	第2日目	
	10:00～11:30	講演Ⅱ 「認知症の『人』を支える ～専門職として果たすべきこと～」 講師 株式会社大起エンゼルヘルプ クオリティマネージャー 株式会社波の女 専務取締役 和田 行男氏
	11:30～11:40	閉会式

発表者：特別養護老人ホームやすらぎ園 介護員 高山 勤

演題：従来型特養の個室化に向けての取り組みと当施設が目指すケアについて

利用者、家族の多様なニーズに応じるため、試験的に4人部屋を個室にリフォームを行う。そして利用者、家族、職員に変更前と変更後について、生活の質、ケアの質にどのような変化が現れたのか、それぞれの視点をもって検証を行い、そこから浮かび上がった課題に対して取り組むことで、これからの当施設が目指すケアの方向性を発表する。

発表者：特別養護老人ホーム慈光園 介護職・ケアマネージャー 辻 裕之

演題：学習療法と個別ケアの効果

T氏は、入所当初より物を盗られたなどの被害妄想があり、傾聴、声掛けをしても聞き入れてもらえず、部屋に閉じこもる状態であった。H23年7月に学習療法を導入したが、開始当初は拒否が激しく、スムーズに行えなかった。そこで、特定スタッフとの学習や時間・場所の工夫などをして実施できるようになった。1年5ヶ月後には、被害妄想が軽減し、ケアができるようになり、ホールで利用者やスタッフと笑顔で過ごされる様子を発表する。

発表者：特別養護老人ホーム平城園 浅田 和昭

演題：自然排便を促す排泄と散歩の取り組み

この取り組みでの理想的な最終到達目標は、一般的には、オムツ外しであるが、当施設では、目下の所、そこに到達するまでの段階での取り組みである。水分摂取の量を増やし、おつじ体操や、温巻法(おんあんぼう)による腹部マッサージ、散歩、または、トイレ時には腹圧をかけながら、排便姿勢を正確に行う事により、眠っていた腸の働きを活発にさせ、出来る限り緩下剤に頼らずに自然に排泄出来る様に、促して行ければと思ひ、取り組んだ内容を発表する。

発表者：特別養護老人ホーム慈光園 介護職 徳永 昌義

演題：学習療法が認知症に与える影響

認知症の予防と改善を図っていくために利用者に学習療法を取り入れた。FAB・MMSE検査、家族、本人へのアンケートを学習療法の前と3ヶ月後に行いました。その結果FAB・MMSE検査での点数の上昇がみられ、周辺症状の緩和がみられました。テレビのスイッチを自主的に切る、外出する事が増えた等意欲の向上がみられた。このことから、学習療法は前頭前野の機能に影響を与え認知症の予防・改善に繋がったことを発表する。

発表者：特別養護老人ホームほれほれケアセンター白樺 介護職 市場 剛

演題：アルツハイマー型認知症のご利用者との関わりと誤嚥性肺炎の予防

アルツハイマー型認知症であり、寝たきりで何も自分でする事ができなかったご利用者が本人様本来の生活スタイルを取り戻して頂く為に適切な離床、排泄への取り組みを続け、無表情な一日から表情豊かな一日に変わる為に家族様の協力を得ながらどのような関わりをもったか。また度重なる誤嚥性肺炎により入院を繰り返された状況から、他職種と連携しどのように改善につなげたかを発表する。

発表者：特別養護老人ホーム慈光園 介護職 山口 マリ子

演題：視覚障害を持つ認知症の方に対する学習療法の取り組みの成果 一効果的な学習を実践する為に

当施設では、認知症の維持・改善を目的に公文学習療法を実践している。入所時から、学校にきていると思っておられるK氏に学習療法を行ったが、K氏は白内障による視覚障害と帰宅願望があり、学習困難な状態であった。そこで、楽しく学習して頂く為に、支援スタッフを対象にアンケートや、視・色覚検査の実施、また帰宅願望が出現する時間帯を調査し学習時間帯を変更した結果、学習に良い変化が表れたことを発表する。

発表者：特別養護老人ホーム和里(にこり)シニアリーダー支援員 岩岡 克己

演題：パーソン・センタード・ケアと認知症ケアマッピングのフリーフィンク ～認知症高齢者への関心を高めるために～

今年度の当法人の事業計画に「パーソン・センタード・ケア(PCC)の価値基盤で対話し、可能性を引き出せる人へ」がある。そこで、定期的に認知症ケアマッピング(DCM)を外部のDCM研修終了者(マップ)と実施し、パーソン・センタードな組織づくりを目指してきた。しかし、PCCの実践は容易ではなく、関西地区のDCM推進事業所としても、今一度、フリーフィンクを実践し、PCCとDCMについての理解を深める必要があった。PCC勉強会を法人職員100%の参加をもって、理解の足並みを揃え確実に実践へつなげていくこと。誰もがPCCな価値基盤を持ち、主体的に参加できるような機会をつくってきたことを発表する。

発表者：軽費老人ホーム祥水園 生活支援員 塩崎 多紀

演題：当施設における高齢者の心理的居場所感とWell-beingとの関係性

本研究は施設を利用する高齢者の心理的居場所感とWell-beingとの関係性を写真投影法を用いて明らかにすることを目的とした。心理的居場所感として「人物」を選択する高齢者は、より被受容感が高いことが示され、高齢者のWell-being向上には周囲の人との情緒的な繋がりに着目することが重要であると考えられる。以上は結果の一部であり、本研究は高齢者のWell-beingについて様々な角度から検討した。以上の研究から得た内容を実践結果として発表する。

発表者：特別養護老人ホーム祥水園 介護士 西 恭平

演題：「もし、介護職がドラッガーを実践したら…」

介護職は今までマネジメントをされずにいた。しかし、ご利用者の命を本当に守るためには、介護という仕事をマネジメントすることが、必要だと気付いた。当法人では、軽費老人ホームとデイサービスがISOを取得しているが、特養もISO取得の為に少しづつ取り組みは始めている。特養の今のマネジメントの実践と課題をとりあげ発表する。

発表者：特別養護老人ホーム美吉野園 主任介護員 榎井 雅史

演題：統一ケアに向けての法人の取り組み

美吉野園は、歴史も古く、以前では、一部の業務や援助方法などに関して、昔ながらの「見て覚える」というものもあり、職員それぞれの方法に多少の違いがあり、ケアの統一・標準化という部分において、課題と感ずる部分があった。標準化を行う為に、当園では世界基準である「ISO9001」認証取得に取り組みを始め、平成23年5月6日に認証取得した。取得にあたり、各種業務などの手順書(マニュアル)の整備、チェック表などの精査を行った。また従来の事業計画書についても、事業評価システム「バランス・スコアカード(BSC)」を取り入れることで、普段の業務との関連性を強める手法を取り入れた。取得後の現在、随時の手順書の見直し、年度毎のBSC作成など実施。また年2回の内部監査の実施も行う事で、法人全体のチェック機能の強化に努めている。所得から2年が経過し、業務やシステム自体は正常に機能しているが、新規職員等への説明、理解について、個人差など、今後も法人全体が、正常に機能していけるように、課題を見つけて、取り組んでいく必要があることについて発表する。

発表者：特別養護老人ホーム祥水園 生活相談員 中尾 浩之

演題：祥水園「防災」元年

祥水園では「防災」という言葉を幅広く捉え、自然災害時の職員対応や、園の設備、備蓄内容の充実、確保は当然の事ながら、我々にとって防災とは、自然のみならず、ウイルスの発生なども、捉えられるのではないかと考え、ノロウイルス、インフルエンザの予防、蔓延防止対策や発生時の対応について、もう一度見直すことにした。同時に地域の方と連携を密にすることはもとより、祥水園が地域に対して何が出来るのかを課題とした。祥水園としての「防災」への取り組みを発表する

発表者：特別養護老人ホーム梅寿荘 生活相談員 今井 康順

演題：福島県・特別養護老人ホーム竹水園への介護職員派遣報告～東日本大震災被災地施設への支援～

東日本大震災の被災地は復興に向けて、日々歩みを進めておられるが、その中でも福島県は原発事故の影響で福祉施設の安定的な確保が困難な状況が続いている。平成25年7月～9月に奈良県内13施設14名の介護職員を福島県の竹水園に派遣させていただき、代表者により被災地の実際と被災施設での経験を発表する。

講師プロフィール

医療法人社団裕和会・理事長 長尾クリニック

院長 長尾 和宏 氏

95年尼崎市に長尾クリニックを開業。外来診療並びに24時間体制の在宅医療まで、「人を診る」総合医療を目指す。

日本慢性期医療協会・理事、日本尊厳死協会・副理事長、医学博士。

「平穏死・10の条件」、「胃ろうという選択、しない選択」、「抗がん剤・10のやめどき」など著書多数。

個人ブログもトップ人気となっている。



株式会社大起エンゼルヘルプ® クオリティマネージャー
株式会社波の女 専務取締役 和田 行男 氏

国鉄の車両修繕(検修)に従事した後、特養、老健・グループホーム等で寮父・相談員・施設長を経験する。03年から株式会社大起エンゼルヘルプ(だいき)クオリティマネージャー、10年から株式会社波の女(なみのおんな)専務取締役に就任し、現在に至る。

著書：大逆転の痴呆ケア・認知症になる僕たちへ・認知症開花支援(中央法規出版)
介護・福祉の応援サイト「けあサポ」(中央法規)毎週連載中

テレビ、雑誌、新聞などのメディアにも多数登場して認知症や介護関連のメッセージを送り続けている。2012年6月NHK「プロフェッショナル～仕事の流儀～」に出演

